

「エコアクション21」説明会 中小企業の環境経営学ぶ

近畿印刷産業機材協同組合は8月29日、大阪キャッスルホテルにおいて「エコアクション21」説明会を開催し、16名が参加した。

昨今、大企業のみならず中小企業においても、環境に配慮した経営が求められています。こうした中、平成19年6月1日に閣議決定された「21世紀環境立国戦略」の中において、「エコアクション21を活用し、業種特性に対応しつつ中小企業における環境管理を促進する」とエコアクション21の活用が規定された。

今回は、事業者向けの環境経営への取り組み手段として注目される「エコアクション21」について「どのような制度なのか?」「導入を検討しているがどうしたらよいか?」「認証・登録の方法は?」など、わかりやすく解説された。

組合員企業の従業員ら115名参加 恒例のビアパーティ開催



▲加貫理事長の乾杯発声でスタート

近畿印刷産業機材協同組合は8月29日夕暮れから、大阪キャッスルホテル3階錦城閣において115名の参加のもとで夏季恒例の「組合員・従業員交流ビアパーティ」を開催した。

冒頭、挨拶に立った加貫理事長は、平素の組合運営協力に感謝の意を示した上で、人間社会優先の中で厳しさを増し続ける環境保全問題。企業としても社会から求められる責任の度合いは厳しくなっており、社会的責任の一端を果たす上での認証取得の支援事業をはじめ、不用品1つにしても簡単に捨てることの出来ない状況下、使い尽くした機器や備品など、合法的に処分するための業者との提携、さらに高速道路の割引制度利用斡旋など、今後の実施事業を説明して協力を要請した。

この後、同理事長の発声で開宴され、水の都、大阪を代表する大川の川面に輝く夜景を眺めながら参加者は、ジョッキ片手に和やかな歓談のひと時を過した。

高野山印刷産業人納骨塔奉讃会 慰霊祭・追悼法要を厳修

高野山印刷産業人納骨塔奉讃会(吉田忠次会長)主催(協賛:大阪印刷関連団体協議会)による恒例の「新物故者慰霊祭並びに納骨者・業界物故者追悼法要」が8月24日、高野山大霊園で厳修された。

例年は大阪印刷産業人物故者納骨塔前において厳修されているが、今年は雨天のため高野山大霊園事務所2階の持仏堂において執り行われ、当日は関連団体代表者をはじめ、遺族、一般参拝者など、およそ160名が参拝に訪れ、納骨塔内で安らかに鎮まる故人の冥福を祈るとともに、遺族の安泰と印刷・関連業界の加護を祈願した。

高野山大霊園の印刷産業人物故者納骨塔は、大阪印刷関連団体協議会加盟の団体が一体となり、昭和48年8月20日に建てられ、その日に開眼大法要が営まれた。以来これを記念して、毎年8月20日前後に「慰霊祭並びに追悼法要」を執り行っており、今回で41回目を数える。

午前11時30分より報恩院の前官御房である山口耕榮住職を導師として高僧4名を迎えて前讃、散華と法要は進められ、続いて吉田会長が新物故者慰霊並びに納骨者追悼の辞を大要次のように読み上げた。

「納骨塔は印刷業界全体の拠り所とされ、未来永劫の宿縁を結ぶことができるようにとの願いのもとに物故者のご芳名を記した芳名録を作成して故人のご冥福をお祈りしている。新仏の中には、長年組合運営に参画され、印刷関連業界の重要な役員として尽力された方々が多数おられ、大阪印刷関連業界が今日あるのは物故された方々の偉大な功績であると深く感



▲焼香の長い列が続く

謝しなければならない」

この後も、厳粛に法要が執り行われ、関連団体代表、遺族、そして一般参拝者焼香の長い列が続いた。

本年度慰霊祭の新物故者は、印刷業界が5名、関連業界が6名で、90歳代の方が4名、80歳代の方も4名おられ、ご長寿での活躍が偲ばれる。

慰霊祭・法要の最後に参拝者に対して感謝の意を述べた吉田会長は、同事業を継承していく重要性を訴えた上で、「納骨塔は建立されて41年が経過し、細かな修理はもとより、全体の大修理もいずれ必要になる」とし、浄財としてより一層のお供え、寄付への協力を呼びかけた。

恒例の「ゴルフコンペ」 優勝は下垣充弘氏

組合員交流の場として恒例の「ゴルフコンペ」が10月22日、奈良の飛鳥カントリー倶楽部において開催され、20名が参加した。

競技方法はダブルペリア。優勝は榊下垣鉄工所の下垣充弘氏(OUT:50、IN:49、GROSS:99、HDCP:26、NET:73)で、準優勝は安達晃善氏(ウエノ(株))、第3位は吉川悦正氏(吉川機械器具(株))。なお、ベストグロスには81で安達氏。



▲プレー後の食事会で記念撮影